

## 就農事例

### 古川真吾氏 (古川農園)

調査日 令和4年1月(就農後12年目)

所在地 さぬき市津田町

経営主 古川真吾

主要事業 露地野菜

主要作目 水稲 80a  
ネギ 120a  
ブロッコリー 60a  
ナバナ 40a  
オクラ 20a

就農タイプ 新規就農(兼業農家出身)

就農時期 平成22年

労働力 家族 本人と妻、母  
常時雇用 なし  
臨時雇用 なし

## ヒストリーあらすじ

・古川真吾氏はさぬき市の兼業農家出身で、農業高校卒業後、高松市内の製造業に勤務。生活の基本である食に関わる仕事がしたいと思い、平成22年2月に退職。実家母が自営業の傍ら行っていたネギ栽培に従事し、同年9月に本人名義で出荷、23年から借地して、徐々に規模拡大した。

・結婚後は、高松市に在住していたが、就農前に実家に家族(妻と子供2人)で転居。就農関係事業※が利用できず、資金繰りと農地の確保に苦労した。

※当時の認定新規就農者制度は、就農前に県から認定を受ける必要があった。

・ネギ主体で徐々に所得を上げていき、25年にブロッコリー、26年にナバナ、オクラの新規品目を導入して、着実に経営安定をめざした。

・家族労働を基本に、雇用をせず、経費節減に努めている。就農当初は、本人と実家母、30年から妻もフルタイムで従事するようになった。

## エッセンス

### ●リスク分散

・失敗しても、常に出荷できるような作業体系を選択  
・栽培品目は、主要な3本柱を持つことを心がけ、適地適作の品目を選定し、基本に忠実に栽培することにより、量の確保に努めた。

### ●家族労働でできる規模+α

・少し無理するくらいの規模拡大  
・JA香川県の支援の活用や、出荷体系(箱での出荷など)の見直しを行い、雇用をせずに堅実に働き、労働時間を短縮できるよう工夫した。

### ●青年就農給付金(H29年度~「農業次世代人材投資事業」に変更)

・給付金で、排水管理や作業場確保ができた。ちょうど収入のない月に給付されたので、運転資金等に役立てた。

### ●情報収集

・情報収集が不十分なまま農業に従事したものの、その後、研修会に参加し仲間と交流したり、先進農家を視察することが経営安定のきっかけとなったことから、就農希望者には研修(1年以上)を勧めたい。

## リスク分散し、常に出荷できる栽培品目を選択



経営主体のネギ



夏場の経営安定のためのオクラ



ブロッコリー栽培の状況



冬から春にかけて、ナバナを栽培

## 古川真吾氏 ヒストリー

就農前	就農期 平成22年～	確立期 平成25年～	発展・将来展望 平成30年～
<p>●他産業で勤務。兼業農家出身</p> <p>・高等学校卒業後、平成22年2月まで、高松市内の会社(製造業)に勤務。 ・平成17年に結婚し、高松市在住。</p> <p>景気の低迷で、会社勤務に希望を感じることができなくなった。 生活の基本である食に関わる仕事に従事することで生活の安定をめざそうと考えた。また、実家の母が、借地してネギの栽培に従事していた。</p>	<p>●平成22年7月独立・自営就農</p> <p>・平成22年7月、ネギの栽培で就農、同年9月に、出荷名義を母から自分に変えて、初出荷した。 ・平成23年に親戚等から自分名義で40a借地し、ネギ栽培。 ・雇用なし。平成24年から母と妻に専従者給与を支給。それまで、妻は育児に専念していた。 ・平成23年10月に父が亡くなる。</p> <p>農地の確保に大変苦労した。徐々に近隣の高齢者から借地できるようになった。</p>	<p>●規模拡大と新規品目の導入</p> <p>・借地が平成25年115a、26年141a、27年172aと徐々に増加。 ・平成26年ナバナ、オクラを導入。 ・雇用なし。家族労働を基本に、少し無理する範囲で規模拡大を図る。</p> <p>ネギ、ナバナ、オクラなど毎日、コツコツ作業できる品目を経営の中心とする。ブロッコリーは長期に作業できないので、規模拡大はほどほどにする。野菜栽培に良い農地を確保するため、借地を増やして、水稲で管理していく。</p>	<p>●適正管理で品質向上をめざす</p> <p>・条件の良い農地に絞る。 ・水稲で農地管理し、野菜を導入し、少しずつ規模拡大し、適正管理で品質向上をめざす。</p> <p>貯金1億円をめざす。</p>
<p>●実家へ引っ越し。会社を退職</p> <p>・平成21年にさぬき市の実家へ家族(妻と子供2人)で引っ越し。 ・平成22年2月に退職。母のネギ栽培を手伝う。 ・研修せずに、近隣農家に聞いたり、自分で試行錯誤した。</p> <p>情報収集が不十分のまま農業に従事し、認定就農者制度や機械を導入するための補助事業の利用が見込めなかった。 就農のための資金確保ができなかった。 技術は、自分でいろいろチャレンジし、成功したやり方を広げていったので、習得に時間がかかった。</p>	<p>●平成23年、普及センターに相談</p> <p>・相談時は、既に独立自営しており、認定就農者になれなかった。 ・セミナーに参加し、仲間と交流したり、先進の大規模農家を視察した。</p> <p>情報不足や支援制度が利用できなかったこと、家族労働による経営など、先進事例と状況が違うことにショックを受けた。</p> <p>●青年就農給付金の活用</p> <p>・平成24年9月(～27年8月)から青年就農給付金が支給される。 ・平成24年に、赤字経営から黒字になる。 ・ネギ59aにブロッコリー15aを導入。</p> <p>青年就農給付金により、機械や設備、運転資金の充実が図れた。</p>	<p>●売上アップで経営安定化</p> <p>・平成27年に売り上げが1000万円を超える。 ・平成27年に家族(第3子誕生)が増え、29年に実家近くに土地を購入し、新築。</p> <p>所得向上の秘訣は、 ・経営状況を常に把握し、月々の収支目標を決め、経費を配分する。 ・堅実に働き、無理な借金はしない。</p> <p>●平成28年7月、認定農業者となる。</p>	<p>●キーワード</p> <p>・「リスク分散」:失敗しても、常に出荷できるように。 ・「家族労働でできる規模+α」:少し無理するくらいで。 ・「給付金(現次世代人材投資資金)」:排水管理や作業場の確保ができた。ちょうど収入のない月に給付金が支給されるので、運転資金になった。</p> <p>成功の秘訣は、 ・親のルールの上に発展させていくのが良い。所帯持ちでゼロから就農するのは危険と考える。 ・就農希望者には研修(1年以上)を勧めたい。 ・栽培品目は、主要な3本柱を持つことを心がけ、適地適作の品目を選定し、基本に忠実に栽培することにより、量の確保に努めた。 ・JA香川県の支援の活用や、出荷体系(箱での出荷など)の見直しを行い、雇用をせずに堅実に働き、労働時間を短縮できるよう工夫した。</p>

古川真吾氏〈課題と対応策〉

フェーズ		就農前 ～平成22年	就農期 平成22年～	確立期 平成25年～	発展・将来展望 平成30年～
主な出来事		<ul style="list-style-type: none"> <li>●自営業。母がネギ栽培</li> <li>●結婚して、高松市に住む。子供2人。21年にさぬき市の実家へ引っ越し</li> <li>●高松市内の会社(製造業)に勤務し、22年2月に退職</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●22年7月独立・自営就農。同年9月、自分名義でネギ初出荷</li> <li>●23年10月父が亡くなる</li> <li>●23年40a借地</li> <li>●ネギ栽培を主に、ブロッコリー導入</li> <li>●雇用なし。労働力は本人と母。妻は子育てしながら手伝い</li> <li>●24年～青年就農給付金開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●徐々に借地で規模拡大</li> <li>●26年、ナバナとオクラを導入</li> <li>●27年、子供3人となる</li> <li>●29年、宅地を購入し、新築する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●条件の良い農地に絞る</li> <li>●水稲で農地管理し、野菜を少しずつ規模拡大する</li> <li>●30年から、妻がフルで農業に従事する</li> </ul>
経営課題	ヒト・組織	母がネギ栽培20a	本人と母。24年から妻雇用なし	本人と母、妻。雇用なし 認定農業者	本人と母。妻がフルタイムになる。 雇用なし
	土地・設備	農地を確保し、機械・設備を充実する必要があった	農地は借入 設備投資	農地は借入 設備投資	条件の良い農地に絞る
	カネ	赤字経営であり、 蓄えでカバーする必要があった	運転資金・設備資金の調達 青年就農給付金利用	運転資金・設備資金の調達 青年就農給付金利用	貯金1億円をめざす
	技術・ノウハウ	農業に関心があり、通勤の休日などに、 母の農業を手伝う	先輩農業者やJA部会等で情報収集 自分で試行錯誤して、習得	先輩農業者やJA部会等で情報収集 自分で試行錯誤して、習得	先輩農業者やJA部会等で情報収集 自分で試行錯誤して、習得
	販売・販路	JA主体の出荷を想定	JA主体の出荷	JA主体の出荷	JA主体の出荷
	情報	普及センターとの相談なし 近隣農家	JA部会、さぬき市、普及センター 先輩農業者	JA部会、さぬき市、普及センター 先輩農業者	JA部会、さぬき市、普及センター 先輩農業者
	地域	さぬき市鶴羽地区 (自宅近くで)	自宅周辺	自宅周辺	自宅周辺
	具体的内容 (課題の内容)	・栽培技術・経営知識の習得、農地など、 ほぼゼロからのスタート	・農地の確保 ・経費節減、資金調達 ・技術習得	・農地の確保 ・新規品目の導入 ・売上及び所得の向上、経営の安定化	・労働力に応じた経営規模と品目の選定 ・条件の良い農地に絞る ・売上及び所得の向上、経営の発展をめざす
対応策 (課題にどう対応したか)	・研修制度等を利用していないが、実家で農業を見ることができた。 ・自己資金の蓄えがなく、母の経営を基礎として、雇用せずにできる範囲の経営を目指した。	・農地の確保に大変苦労した。徐々に近隣の高齢者から借地できるようになった。 ・青年就農給付金を利用して、機械、設備投資、運転資金の確保に役立てた。雇用せず、経費節減に努めた。無理な借金はしない。 ・試行錯誤を重ね、成功事例を広げていった。とにかくがむしやりに働いた。	・野菜栽培に良い農地を確保するため、借地を増やして、水稲で管理した。 ・ネギを主体に、ナバナ、オクラなど、毎日コツコツ作業できる品目を選定した。ブロッコリーは長期に作業できないので、規模拡大はほどほどにした。 ・経営状況を把握し、月々の収支目標を決め、経費を配分した。	・「リスク分散」：失敗しても、常に出荷できるように。 ・「家族労働でできる規模+α」：少し無理するくらいで。 ・適正管理で品質向上をめざす。 ・土づくりに力を入れていきたい。	